

NPO 法人 DGC 基礎研究所 2004 年 5 月期事業報告書

I 事業期間 2003 年 6 月 1 日 ～ 2004 年 5 月 31 日

II 事業の成果

1. 街路樹剪定枝葉の有効利用の推進

公園や街路樹などの維持管理において大量に発生する剪定枝葉の多くは、廃棄物として焼却や埋め立てなどにより処分されている未利用資源です。また、近年の環境問題への関心の高まりに加えて、法律による野焼きの禁止や処分場の立地などの諸問題のため、剪定枝葉を有効利用する事業が各地で広まりつつあります。

しかし、現在一般的に行われている利用方法は、従来から広く普及している林業系資材と競合するため、必然的に需要が限られてしまう問題があります。剪定枝葉の積極的かつ持続

的な利用を推進するためには、他の有機質資材には見られないような特性を引き出して付加価値を高め、差別化を図ることが重要です。

DGCbase は、前期に引き続き、剪定枝葉処理技術向上のための共同研究を京都府立大学と行うとともに、有用技術の特許申請（4 件）を支援しました。また、2004 年 5 月から、新しい利用法の実用化のための研究を奈良県農業技術センターと共同で開始しました。



京都新聞(2004年1月20日)の記事より

2. 生活者のための食の安心協議会 <http://www.anshin-shoku.jp/>

人口に比して狭い耕地しか持たないわが国が、世界最高水準の安全で豊かな食生活を享受しているのは紛れもない事実です。しかし、BSE 問題や表示偽装問題を契機に、消費者の中には「食」に対する様々な「不安」が蔓延しています。これらを払拭するには、トレーサビリティ・システムなどによる徹底した情報開示と、その受け手である消費者の知識や意識の底上げが重要です。

「生活者のための食の安心協議会」は、産学官民が横断的に協力を図りながら、「食」にまつわる諸問題を中立的な場で議論し、トレーサビリティ・システムの普及支援やリスク・コミュニケーション等に関する事業を行うために発足しました。

2003 年 8 月 29 日に六本木ヒルズ（東京）、2004 年 2 月 8 日に千里ライフサイエンスセンター（大阪）にて、産学官民の連携による日本の食を考えるシンポジウム「食と農—安心のためのリスクコ



第1回シンポジウム(六本木ヒルズにて)

コミュニケーション」を開催し、問題提起とその解決のための議論を行いました。また、食糧の生産から消費に至る様々な情報を提供するために開発された「自然生産物履歴管理システム（インタラクティブ・トレーサビリティ・システム）」の実用化事業の一環として、北海道芽室町の「未来農業集団」（<http://www.dgc.co.jp/ffg/>）の協力のもと、ICチップを用いた農産物流の追跡実験を2003年8月に実施し、同年11月にはコープあいづ・若松店にて、店頭モニターを設置した農産物の販売実験を行いました。さらに、2004年3月には、東京都立産業貿易センター浜松町別館にて開催された農業情報学会主催「第16回食・農・環境の情報ネットワーク全国大会」の「農業情報技術展」に出展し、本協議会の取り組みを紹介しました。

2004年5月31日に東京都へNPO法人の認証を申請し、今後はDGBaseによる学術的な支援を受けながら、独立したNPO法人として幅広い活動を展開して行く予定です。

3. 農業低温科学研究会 <http://sacrys.jp/>

2003年10月18日、農業低温科学研究会が農林水産省、社団法人農林水産先端技術産業振興センター（STAFF）、生研支援センターとの共催で、京王プラザホテル（札幌）にて「産学官連携アグロビジネス創出シンポジウム」を開催しました。DGBaseはブース展示を行い、複雑性科学理論、多様性の持つシステムの動的安定性制御、複雑系制御工学手法を新たな会社経営、農村社会構築に利用した事例を紹介し、環境・農業関連団体とのコンサルティング契約に関する相談を受けました。

4. 田園空間博物館

農林水産省では、平成11年より「田園空間整備事業」として全国で約50箇所の田園空間モデル地域を指定し、美しく、しかも資源として高度に利用可能な農村地帯の整備を行っています。その中の一つ、「とち大平原地区」における事業活動のイメージ・ロゴの一般公募やそのロゴ入りキャップ「Qキャップ」（Qは学芸員の意味）の作成などの企画について、DGBaseが支援を行いました。

5. 研究者集団につながる窓口サイトの運営 <http://www.dgbase.jp/>

インターネット上に専用サイトを開設し、科学の普及啓発や科学的な問題解決についての問い合わせを随時受け付けています。また、会員のみが閲覧できる「会員専用ページ」内には、テーマごとに掲示板を設置し、研究者への質問や共同研究の呼びかけなどに利用されています。



事務局にて稼働中のDGC専用サーバー

Ⅲ 事業の実施状況

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 産官学民連携推進事業

【内 容】 産官学民連携事業の企画及び支援

【実施場所】 北海道、福島県、東京都、京都府、大阪府、奈良県、インターネット

【実施日時】 随時

【対 象 者】 参加希望者

【収 入】 443,000 円 (但し、シンポジウム参加費として)

【支 出】 9,890,435 円

Ⅳ 社員総会の開催状況

1. 定時総会

【開催日時】 2003年8月29日、14時30分～16時10分

【開催場所】 六本木ヒルズ森タワー 49F、カンファレンスルーム 6

【出席者数】 正会員 17 名 (うち委任状 10 名) (正会員総数 24 名)、賛助会員 1 名

【議 案】 第 1 号議案 平成 14 年度事業報告及び収支決算の承認の件
第 2 号議案 次期役員選任の件

【審議結果】 第 1 号議案は、満場異議無く承認可決した。

第 2 号議案は、各立候補者が満場一致をもって信任された。

Ⅴ 理事会その他の役員会の開催状況

1. 理事会

【開催日時】 2004年2月12日、16時15分～17時15分

【開催場所】 (株)日本経済広告社、本社、第2応接室

【出席者数】 理事 3 名 (理事現在数 4 名)、事務局長 1 名

【議 案】 第 1 号議案 収益事業開始承認の件

【審議結果】 満場異議無く承認可決した。

なお、具体的な開始時期については、事務局長に一任することとした。

(2004年8月現在、収益事業未開始)

以上